

# 国立公園とジオパーク

## ●雲仙岳を共通シンボルとする2つの自然公園

雲仙天草国立公園の雲仙地域（国立公園「雲仙」）は、雲仙岳を中心として、島原半島3市の標高の高いエリア全体が指定されています。昭和9年の3月16日に日本初の国立公園に指定され、2014年で80周年を迎えています。指定の際に特に評価された点は、三方の海と雲仙岳が織り成す“水陸の大展望”です。

その国立公園を核として、平成20年には島原半島全体が日本ジオパークに認定されました。平成21年8月22日には日本初の世界ジオパークに認定され、2014年で5周年を迎えました。英名は *Unzen Volcanic Area Geopark* で、テーマは「活火山と人の共生」です。

国立公園は「自然公園法」に基づいて指定され、区域内の雲仙岳本体の保護と利用について計画的に推進できる制度です。その説明からは一見、公園の区域外には関係のない制度のように思われがちですが、島原城下町、原城跡、小浜温泉街等の山麓の観光スポットにおいて、観光客の方々が楽しんでいる山～里(町)～海の風景の山(雲仙岳)の部分は、実は国立公園の制度で美しい状態に保全されているのです。

そして、その山～里～海の風景に隠された大地のストーリーを楽しく伝える“ふるさと紹介”の制度がジオパークと言えるでしょう。

本誌では、国立公園とジオパークの共通シンボル「雲仙岳」の様々な側面に光を当てることにより、国立公園とジオパークの魅力を一体的に紹介してみたいと思います。



島原港のバックにそびえる  
国立公園の東端の“眉山”